

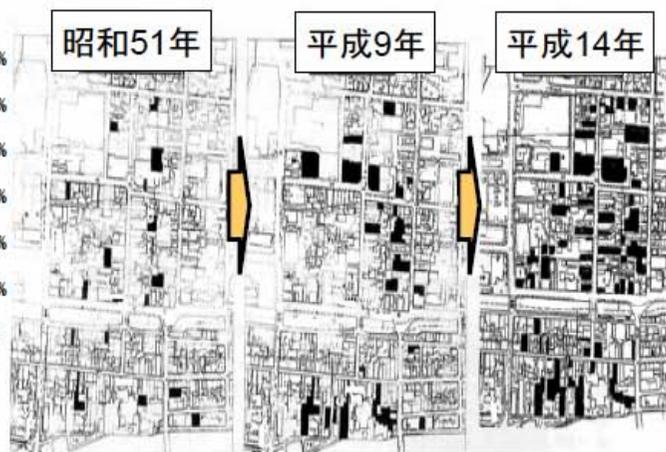
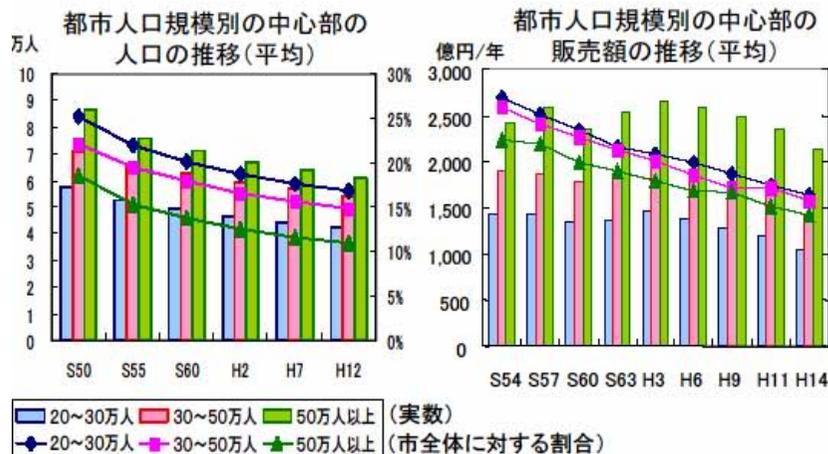
中心市街地をとりまく現状

- 中心市街地をとりまく現状は、全体として依然厳しい傾向。居住人口、商業販売額が減少。
- 大規模商業施設は、工場跡地や郊外立地が増加。病院や社会福祉施設等も、郊外立地(市街化調整区域等)が増加。

中心市街地の居住人口や販売額は減少

中心市街地の空き地等が増加

「シャッター通り」となった商店街

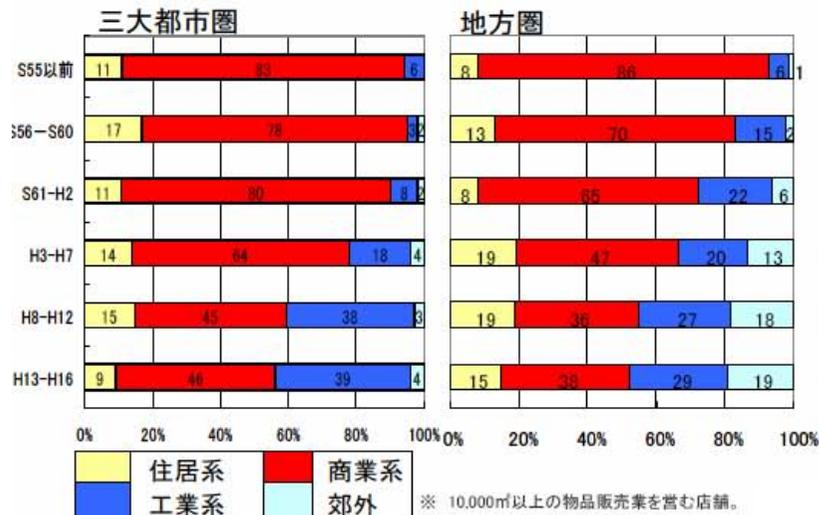


※三大都市圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県)及び政令指定都市以外の地域における人口20万人以上の都市を対象として国勢調査を集計。
※過年度の販売額データについては、平成14年度の消費者物価指数を100として補正。

大規模店舗の立地状況

公共公益施設の郊外化のイメージ

取組等の現状



旧法の基本計画策定市町村へのアンケート

- ・ 行政が自ら基本計画の実現に取り組んでいる地区※は少数(136地区、全体の22%)。
- ・ こうした取組が成果を挙げている地区はさらに僅か(38地区、全体の6%)。

※ 地権者との意思疎通や市民合意の形成、中心市街地での公共施設整備などに取り組んでいる地区

小売店舗等に関する世論調査

- ・ 中小小売店の満足度は、「満足」「やや満足」は合わせて40%で、大型店(73%)に比べ低い。
- ・ 中小小売店への不満は、「品揃えの悪さ」「一度にいろいろ買えない」等